

ぎやらりーわ

NO. 59

2012年7月号



●花の村内散歩 クロヒメ
アジサイ 日本庭園横で

編集・発行 NPO法人グループわ (西田圭一) ホームページ <http://www.wa-net.jp>
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL078-743-8101 FAX743-3830



2千人の家族連れで賑わった わいわいストリート (撮影・渡邊佳視)

歓声はじける芝生広場

わいわい
ストリート

五月晴れの芝生広場に子供たちの歓声はじけた——〈わいわいストリート〉は5月5日に開催され2000人を超す家族連れが楽しい一日を過ごしました。広場には昔遊び・木工・ケナフ・竹馬・皿回し・サッカーなど19のブースが並び、受け付けを済ませた子供たちは、お目当てのブースへ一目散。木工では、お父さんお母さんも一緒になって木を切ったり、絵を描いたり汗だくです。動物風船には終日長い行列ができ、風車を持った姉妹は「4つもやった。面白かった」とにこにこ顔でした。この日は4つのサークルから80人がスタッフとして参加しました。小学生以下の有料入場は1050人の新記録。担当の岸本理事は「予想外の盛況で嬉しい。各サークルの協力で無事終わることができた」と締めくくりました。(8・9面に写真グラフ)



ボランティアの
輪をひろげよう

59
号の
内容

東北へ第3次支援チームが出発

2・3面

〈わ〉が第9回総会開催 4・5面
功労賞 会員と3団体を表彰 6面
国際車いすテニスを訪ねて 7面

連載「育ちゆく花実の森」② 10面
ボランティアの心 空閑義郎 11面
ミャンマーで梅酒作り 13面

東北へ第3次支援チーム派遣

女川・石巻・仙台・名取の仮設・児童館へ

グループ〈わ〉は7月7日から13日まで（6泊7日）、東北被災地へ第3次支援チームを派遣します。今回も子供たちや仮設住宅の皆さんの“心のケア”をめざし、昔遊び・紙芝居・マジック・大道芸・銭太鼓・民謡などを中心としたプログラムを組み、一緒に遊んだり体験したりしてもらおう内容にしています。振興協会も歌手らのチームを派遣、一部の施設では合同で公演します。（広報・南形徹）

振興協会チームとも共演

訪問地は女川町・石巻市・仙台市若林区・名取市の仮設住宅・保育所・小学校・児童センターなど15か所で、昨秋10月に訪問した施設が大半です。メンバーは17人。公募したこともあり現役4人を含む9人が初参加。うち4人は銭太鼓グループで、これまでとは違った公演が期待できます。西区竹の台小の女性教諭（防災担当）が3日間同行、東浜小・女川第四小訪問などに参加します。

福祉振興協会（しあわせの村）もプロの歌手花城アリアや女性パフォーマー・ドレミちゃん、体操のインストラクター、協会職員ら6人のチームを派遣。〈わ〉のチームと合同で計3回公演します。協会チームとの共演は昨年7月に次いで2回目。

プログラムは仮設住宅用、小学校・児童館用、協会との合同公演用の3種を用意。被災者や子供たちに寄り添って話し相手になったり、一緒に遊んだりできるようなメニューにしています。

最終日には、仙台市にあるシルバー大学「豊齢学園」を訪問して交流するほか、亀山紘・石巻市長とも面談する予定です。豊齢学園にもボランティア団体があり、地域活動も活発にしているそうなので、連携して活動ができないか、提案することになっています。

【3次チームメンバー】

西田圭一（団長・生9） 芦田義和（リーダー・生15）
海野龍英（幹事・食16） 内田たみ子（福10） 増金スミ子（福11） 水嶋和信（生12・写真） 波多野武郎（食16） 古後健一（健18） 三浦捷治（国10） 三浦良子（国9） 阿部和子（福11） 林弥生（国13） 山田保子（音13） 大橋洋子（音16） 筒井ちなみ（音17） 安田夫市（健17） 大和川明美（18）
▽留守部隊＝大澤貞男（生13） 南形徹（生14）
▽特別参加＝浦崎佳世子（竹の台小）

【福祉振興協会チーム】

花城アリア（歌手） ドレミちゃん（香川彩子） 梅田ちえみ（体操） 田中浩子、福田孝夫・佃孝司（協会）



会議後、リハーサルに励む派遣メンバー（6月28日）

【主な訪問先と日程】

▽7月7日＝早朝、新神戸駅から新幹線を乗り継ぎ仙台へ。レンタカー2台を借りて訪問地を巡回する。女川町復興センターで仮設住宅での公演について打ち合わせ。宿舎は6日間とも石巻グランドホテル。
▽8日＝午前は女川町清水・新田両仮設住宅集会所で公演。午後は石巻東・西仮設住宅。
▽9日＝午前は女川第四、第一、第二小学校の合同公演。午後は石巻東浜小学校・荻の浜保育所で合同公演。10日＝午前は名取が丘保育所。午後は名取が丘児童センター。
▽11日＝午前は名取市増田保育所。午後は名取市ゆりが丘児童センターで振興協会チームと共演。
▽12日＝午前は仙台市若林区東六郷小学校で協会チームと共演。午後は若林区六郷児童館で協会チームと共演。
▽13日＝早朝、石巻市の亀山市長と面談。その後、豊齢学園を訪問、ボランティア活動について意見交換する。午後、仙台駅から新幹線を乗り継ぎ神戸へ。

カレッジ募金5万円〈わ〉に寄託

入学式と6月のジョイラックデーで、グループ〈わ〉とボランティアセンターが共同で実施した東北支援募金は15万9081円が集まり、10万6081円はあしなが育英会に、5万3000円は支援活動費として〈わ〉に寄託されました。ご賛同いただいた皆さまに感謝いたします。

東北へ観光ボランティア

お好み焼きに神戸の心を込めて

「こんな支援もいいのと違う」ともちあがった“観光とちょっとボランティア”の話に、料理を得意とするグループを中心に〈わ〉の有志17名(代表 裏地彦允・食5)が集い、6月25日から3泊4日の観光支援を行ってきた。

初日は女川町浦宿2区集会所での交流会。地域のみなさん30名と一緒に

なって作った“神戸名物すじこんお好み焼き”(写真)と、炊き込みごはん



を共にながらのおしゃべりタイムや、ときおり調子が外れるハモニカ伴奏も加わり、懐かしい歌の合唱で盛りあがる。「今度は民謡を教えてください」と振ると、すぐにいい声で地元の民謡を踊り付きで聞かせてもらいながら、お土産に持参した手作りの葉や団扇、手提げ袋などをプレゼント。

楽しい時の経つのは早いもの、終わる頃には「やあ おいしかった。楽しかった。久しぶりに大きな声で歌をたくさん唄うたべえ」とにこにこ顔。「こんな形で支援を受けたのは初めてです。大感激です」と、女川町復興支援センターの武石 久美子さんが、

最後には感極まって涙されていた情景に、我々もこの人達のご苦勞の大きさ・重さがひしひしと感じとられ、目頭が熱くなった。2日目からは交流会の心のぬくもりを神戸への土産に、東北各地の旅を楽しんだ。東北のみなさん お世話になりました。『どんどはれ〜』 (菅田 忠志 生11・須磨区会)

エコ旅行クラブも被災地見学

東北へ観光ボランティアに――エコ旅行クラブ(村上充代表・国18)は5月31日～6月2日の3日間、総勢34人で岩手(中尊寺拝観)―青森(十和田湖遊覧)―宮城(松島遊覧)のコースを周遊。世界遺産を見たり、温泉に入ったり、被災地にも足を延ばして東北の初夏を楽しんできました。

足は飛行機とバス。新入生の歓迎を兼ねての旅行でしたが、お土産を買うことも支援と聞いて、行く先々でショッピング。小岩井農場のチーズ・バター、笹かまぼこ、民芸品、牛タン、お酒……。「うーん、皆さんいっぱい買い込んでくれましたよ」と村上さん。松島周辺は観光客でにぎわっており、少しは復旧が進んでいると感じましたが、びっくりしたのは津波の惨状が残る名取市ゆりあげ地区。見渡す限りガレキも何もない広大な荒地が広がっています。上末乃さん(食19)は「足が震えて涙が止まらなかった。現地へ来てみなければこんな体験はできない。皆さんもぜひ、東北へ足を運んで」と訴えていました。被災地を見ての思いは、同行の皆さんも同じのようでした。(広報・南形徹)

東北支援サポート募金賛同者 (4月1日～6月30日)

わ区会・部会懇親会4240円、中村宏栄(福9)千円、国頭隆雄(健17)1500円、横井正昭(国6)千円、山田末治(福7)1500円、三谷裕善(生16)千円、水野光明(健16)千円、松岡繁(音5)1500円、広畑朱美(食10)1万円、林篤子(福3)3千円、武田勲(生12)5千円、白井かほる(福13)2千円、迫田純夫(国10)3千円、櫻井幸子(生16)3千円、河野眞澄(食12)3千円、久保田盛利(食7)千円、匿名千円、足田清行(生10)3千円、能美和夫(国11)2千円、中村吉宏(国5)2千円、冨田正(生6)千円、高嶋彰太郎(音6)千円、杉本敦子(音6)2千円、榊原弥栄子(生13)5千円、国分東洋彦(生10)2千円、岡野安子(福8)千円、梅谷正芳(国2)1500円、石古隆信(福12)3千円、赤司松美(生6)千円、中谷昭子(福12)1500円、佐伯登美代(生7)3千円、加藤悦子(福3)3千円、沖邦輔(福14)千円、岡村健二郎(園7)千円、早川重春(国13)1500円、西隈勝利(生7)1500円、小畑章(福11)千円、須賀悦子(国14)1500円、吉田智彦(生6)千円、浅原サチ子(福8)千円、北浦俊明(生16)3千円、三輪匡清(国10)3千円、盛絹子(生7)千円、植田收(福7)2千円、菅田忠志(生11)2千円、釜田弘(国3)5千円、中道富子(生13)3千円、匿名千円、坂本明子(健17)1万円、堀内昭(食6)1500円、浜上千鶴子(福4)1500円、松村尚雄(国11)千円、川西文雄(生7)千円、橋岡章(音8)1500円、鐘築重治(国7)2

千円、西田圭一(生9)1万円、佐伯義昭(国8)千円、原田照子(音3)5千円、田實光男(国6)1,500円、黒坂泰(生9)千円、片山洋子(生16)千円、笹田辰雄(園6)1580円、清水伸子(園13)3千円、奥田健二(福8)千円、岡出美知代(生16)千円、長谷川博(生9)5千円、小島光子(生15)3千円、池田惇(生15)千円、松岡泰彦(園7)千円、島司良(福9)1500円、桑原サト子(福3)千円、平林良直(福3)3千円、楽友クラブ銀雅4560円、島原勇(国9)千円、船曳紀子(音5)2千円、未来館義援金4月分3614円、臼井八枝子(生14)2千円、江本和嘉子(食7)1万円、井上千加子(園15)千円、岩井俊明(音6)千円、宮崎芳江(生12)千円、田原厚子(園15)千円、津田彰子(福1)5千円、深川久美子(音5)千円、ボランティアGわらべ9千円、山口俊雄(生7)3千円、郷肥三(福9)1万円、植村勝(福14)5千円、宮城智子(音1)2千円、総会時募金箱1370円、福本幸子(音13)1500円、佐々木可津(美16)2千円、佐々木好啓(美16)2千円、募金箱760円、江田久美子(福10)3千円、兵庫区会2万円、一森美代子(福12)11000円、ぴかぴか隊2万円、納村裕子(生15)3千円、菅田忠志(生11)2千円、募金箱500円、津川静代(生6)1500円、南形公子(福13)3千円、待鳥孝夫(生13)3千円、KSC民謡クラブ1万円、石河正博(生15)1万円、井口久美子(健16)1万円、芦田義和(生15)5千円、森川道代(国12)2千円、渡邊佳視(生12)1万円、野鳥と自然観察会2万3千円、飯川泰郎(国12)1万円＝合計38万3124円(4月～6月はサポート募金からの出費はありません)

東北支援・里山整備を重点に グループわ 第9回定期総会を開催

グループ〈わ〉の第9回定期総会は5月17日、カレッジホールで開かれ、23年度の事業報告と24年度の事業計画を承認。西田圭一理事長ら新役員を選任して24年度の活動がスタートしました。功労会員の表彰式も行われ、会員1人と3グループが受賞。午後の東北支援活動報告会では、講演と記録ビデオの上映がありました（表彰式の詳細は6面に。東北報告会の模様は5面にあります）。（広報・南形徹）

総会は芳賀順子さん（福10）の司会で午前10時開会。物故者へ黙祷をささげたあと、西田理事長が「今年は会員が180人も増え、1254人となった。活動の輪をより広げたい」と挨拶。来賓の南本伸一・福祉振興協会常務理事は「協会のイベントへの協力に感謝している。幅広い東北支援活動には敬意を表したい」と祝辞を述べ、今井鎮雄学長からは「超高齢化社会を迎え、元気な老人はどういう役割を果たすべきかが問題になっている。KSCの皆さんの実践は、

一つの実験として大きな意義を持っている」とメッセージが寄せられました。

次いで、議長に土井昭政さん（国10）を選出。「出席者155、委任状653、計808で定足数617を上回っており、総会は成立」と宣して議事を開始。西田理事長が「23年度は東北支援やパソコン教室など新しい事業を始めたので、収支は若干の赤字（約50万円）になった。理事手当を半減するなど、来期も運営改善に努める」と会計内容を説明。23年度の事業報告、決算報告が拍手で承認されました。

続いて新役員17人（別表）を拍手で承認。西田理事長が「今期も子どもたちを対象にした事業を進める。①東北支援活動 ②花実の森での自然学習 ③人材支援センター（長田区）でのパソコン講座——の3つを柱に、積極的に取り組む」と3期目の決意を述べました。24年度の事業計画、事業予算を原案通り拍手で承認して11時に議事を終了。引き続き、部会長・区会長・環境未来館・一の谷プラザ責任者・



シンボル旗の下で行われた総会

【24年度の新役員】

理事長	西田圭一（生9）＝（西）
副理事長	岸本 清（生14）＝事業（須磨）
副理事長	堺 汎（園15）＝財務（西）
理事	南形 徹（生14）＝広報（北）
理事	蘆田義和（生15）＝総務（北）
理事	納村裕子（生15）＝事業（北）
理事	井上千加子（園15）＝総務（須磨）
理事	木田育義（生16）新＝事業（北）
理事	北浦俊明（生16）新＝財務（西）
理事	小畑浩昭（国16）新＝総務（北）
理事	西山久雄（園16）新＝広報（兵庫）
理事	井口久美子（福16）新＝事業（長田）
理事	菅田忠志（生11）非常勤（須磨）
理事	林田周治（生14）非常勤（須磨）
理事	海野龍英（食16）非常勤（垂水）
理事	長谷川博（生9）非常勤＝東灘区会長
理事	小林精一（福9）非常勤＝文化部会長
監事	長谷川洸士（国11） 監事 藤田忠之（福13）

【区会長】

東灘＝長谷川博（生9）
灘＝木下完治（食10）
兵庫＝大掛敏夫（生7）
長田＝藤田忠之（福13）
垂水＝池田惇（生15）

【部会長】

福祉＝加藤勇治（美10）
国際＝柳川瀬享一（国13）
文化＝小林精一（福9）
▽環境未来館責任者＝涌井岑治（生9）
▽須磨一ノ谷プラザ責任者＝藤田忠之（福13）
▽学習支援委員会委員長＝加藤勇治（美10）

学習支援委員長に選出された12人（別表）が紹介されました。

功労賞の表彰式のあと、昼食休憩をはさんで12時40分から東北支援報告会。西区竹の台小・西馬和男校長の講演と第1次・第2次派遣チームの記録ビデオを上映。最後にKSC男声合唱団40人によるコンサートで締めくくり、14時20分散会しました。



会員増を生かす方策を

【視点】16期の新会員が160人と大幅に増え、組織全体では1270人を超えた。うれしい話だ。“若い力”を活用した新しい事業を展開する好機ともいえよう。一方、わずかながら23年度の収支は赤字になった。〈わ〉の予算規模約3900万円からすれば少額だが、東北支援活動と人材支援センター（二葉小跡）で始めたパソコン講座の初期投資が響いた。未来館と本部理事の手当・交通費を削減してのやりくりが続く。収支構造は変わらず、2つの電話相談と未来館などの委託事業収入が8割弱を占め、残る2割強を助成金と年会費（180万円）で補う形になっている。

3期目になる西田執行部は、東北支援の継続と花実の森の整備、パソコン講座を3本柱にかかげ事業活動を進めることになった。いずれも助成金がらみの事業だが、助成対象外の出費もある。学習支援など交通費支給の幅を広げたほか、経費のかかる事業も多い。未来館は、環境学習など入館者増加対策の成果が上がりつつあり、収支がやや改善した。〈わ〉がスタートして9年目。団塊世代を意識した新しい事業ビジョンを構築する時期に入ったといえよう。（M）

縁の下の力持ちに 新理事の抱負

◆西山久雄 KSCを卒業し、路頭に迷っていたところ、〈わ〉にスカウトされました。声の大きいことしか取り柄のない私ですが、これも何かの縁と思い、みなさんのお役に立てるよう縁の下の力持ちとして邁進していきます。当面はホームページの更新を進めたいと考えますので、会員みなさま方のご支援をお願いします。

◆海野龍英 東日本大震災プロジェクトの担当になりました。第3次チームを7月に派遣するので、〈わ〉本部に入って、3か月で全ての準備を完了しなければならず、まさに時間との戦いの最中にある。プロジェクトを進めるのに欠かせない人間関係も、〈わ〉の内外で構築しながら対応していかねばならず、ついこの前

までのグループ学習の時代が無性に懐かしい。

◆井口久美子 「卒業後はボランティア活動を」と思い、わ本部へ。久方振りに、錆びた頭をフル回転させながら、仕事を覚えているところです。思いはそれぞれ違っても、和で結ばれた会員の輪がより大きくなることを願って、一歩・一歩着実に、

そして息長く活動していきたいと思っています。

◆小畑浩昭 「わ」の活動は何となくわかっていると思っていた。実際に中に入ってみると、会員数も多く、部会活動・区会活動等社会還元のための活動分野の幅広さに驚いている。“再び学んで他のために”のカレッジ精神が生かされ、社会の要請に応えうる組織への発展のために、少しでもお役にたてれば幸いです。

◆木田育義 在学中グループ学習のテーマに「しあわせの村」を選び、卒業後も「しあわせの村」と何らかの関わりを持ちたいと思っておりましたところ、先輩諸兄のご推薦があり、本部の事業担当を仰せつかりました。諸先輩方のご指導を得、子供たちの笑顔あふれるイベントを目指し活動をしたいと思っております。

◆北浦俊明 この度、〈わ〉にお世話になることになりました。在学中は「わ」の存在を知りながらも、活動には余り参加してきませんでした。ケナフの活動を少しやった程度です。〈わ〉の活動を知るにつけ、大変幅広くたくさんの方が参加されているのを知りました。これから、少しでもお役に立てるよう頑張ってみますので、よろしくをお願いします。

＝写真は物故者に黙祷をささげる総会参加者

（写真 広報・西山久雄）

東北支援の記録ビデオを上映

〈わ〉の総会第2部は東北支援報告会。西田圭一理事長と道満俊徳氏が、1年間の支援活動の概要を説明し、第1次・2次の記録ビデオを上映したあと、西区竹の台小・西馬和男校長が「息の長い交流を目指して」のテーマで講演。阪神大震災の体験から「東日本大震災で何かできないか」との思いから、石巻・東浜小との交流を深め、この3月には仙台と石巻の被災地を訪問した感想を語りました。マイクを握って「♪明日があるさ」の替え歌も披露。〈たった一つのおむすびを 家族で分けて食べたけど 胸がいっぱい 胸がいっぱい 優しさか伝わった〉と歌って会場をじーんとさせました。

功労会員1人・3グループ表彰

長年にわたってボランティア活動に励み、24年度の功労賞に選ばれた会員1人・団体3グループが5月17日、〈わ〉の総会で表彰され、理事長から表彰状と副賞が手渡されました。会員は飯川泰郎（国11）さん。グループは英語点字・神港園整髪・花山梅林会です（別表）。



▲写真左から 表彰された塚本・淡路・今田・飯川の各氏

【功労会員】

飯川泰郎（国12）＝登校の学童見守り7年

【功労グループ】

英語点字G＝点字翻訳本を東南アへ寄贈

神港園整髪G＝入所者の入浴後の介助

花山梅林会＝小学校裏に梅林を育て8年

表彰制度は、22年度から始まったもので3回目。昨年まで「優秀会員表彰」としていましたが、今回から名称を「功労会員表彰」に、表彰対象を原則、会員2人・団体2グループにしました。「活動はグループでやることが多いので、団体に比重を置くべきだ」との提案があり、規程を変更したものです。ところが、今年度は投票の結果、2、3位の得票が同数だったため3団体を表彰することになりました。（活動内容の詳細は58号に掲載しています）

活動の励みに …受賞者のひと言

▼飯川泰郎（国12）＝ この度は、思いもかけず功労賞を頂きありがとうございました。これは「これからも頑張るように」との激励の意味もあると感じています。私が小学校で7年間実践している「学童保護立番」は子供の安全確保と同時に、彼らと朝の挨拶を交わすことでパワーを貰っている喜びもあります。今後も健康管理に配慮して元気で続ける所存です。

▼今田紘・英語点字グループ代表（在籍9人）＝当グループは平成11年に発足し、視覚障がい者のための英語書籍の点訳活動を続けてきました。今回の、功労賞受賞の栄誉は、すでに引退された多くの先輩およびK S Cのグループ員ともに喜び、今後の活動の励みにしてゆ

きます。また、東南アジア諸国の盲学校や点字図書館への点訳本の寄贈活動を活発化してゆく所存です。

▼淡路忠義・神港園整髪グループ代表（在籍10人）＝賞と名のつくものを頂くのは小学校以来のことで、しかも17日は奇しくも74回目の誕生日でもありまして、感激も一入です。活動願っている会員の皆さまと共に喜びを分かち合いたいと思います。これを機に、心新たに身体に留意しながら続けて参りたいと思います。

▼塚本桂三・花山梅林会代表（在籍32人）＝はや、七年が経過しました、当初は広大な土地に松などの大木が枯れてツタが覆いかぶさったものや、雑木、雑草が伸び放題でした。今では通学路は整備され、植樹もほぼ完了し今後は梅林の維持管理に重点を置いて作業を進めてまいります。この度、功労賞をいただき、今後の活動におおいに励みとなりました。誠に有難うございました。（写真・渡邊佳視）

男声合唱団が賛助出演

総会第2部に 男声合唱団（代表北村彰弘・40人）が特別出演。小埜直さんの指揮で「青い山脈」「見上げてごらん夜の星を」「箱根の山」「アンニローリー」の4曲を情感豊かなハーモニーで歌い上げ、会場を魅了しました。締めくくりは、宮城県民謡「斉太郎節」。復興への願いをこめ客席も一緒になって「松島のサーヨー」と力いっぱい熱唱しました。

同合唱団は、10月26日に神戸文化ホールで定例コンサートを開催します。

車いす選手の介助に活躍

ボランティア最前線



国際車いすテニス大会

三木ドームで繰り広げられる熱戦(左) インタビューに答えるベッキーさん(中) 上地結衣さん(右)

国際車いすテニス第19回大会が4月19～22日、92選手が参加して三木市の防災公園としあわせの村で開かれました。この大会には〈わ〉の国際部会が9年前から、北区会が7年前から協力。選手の介助・送迎などのボランティアをしてきました。大会場を訪ねてみました。

晴天の19日は三木のブルボンビーンズドームへ。ここは最新の設備を備えた全天候型のコート。2月にはデビス杯が開催され、錦織圭ら世界の有名選手が来日したそうです。会場に入ると、観客はまばらですが、コートでは熱戦が展開されています。〈わ〉の赤ジャンパー姿が忙しそうです。早速、外国選手にインタビュー——。

気楽に答えてくれたショートヘアの若い女性は英国から参加したMs. Becky Colemanさん(21歳)。OXFORD



UNIVERSITYで科学技術を学ぶ学生です。「付き添いの方と一緒に?」「いいえ、一人旅です」。「関空の長いエスカレーターを利用して便利だった。本国に持って帰りたいくらい」と冗談も飛び出し、「宿泊したしあわせの村で桜がきれいだった」とにこにこ顔。とても明るいお嬢さんで、好奇心旺盛な姿勢に親近感を感じました。

実行委員の土井昭政さん(国際10)の紹介で大会本部長・中野秀和さん(アテネ五輪出場)に会いました。「グループ〈わ〉の皆さんは、大会運営に欠

かせぬ存在です。土井さんにはもう6年ほどお世話になっており、大変感謝しています」。

「今大会は、日本選手トップの国枝慎吾選手がケガで出場できず、最有力は齋田悟司選手でしょうね」。

高校生の上地結衣さん(明石商業3年)は、世界ランキング7位、国内1位という実力派。あどけない笑顔からは、どこにそのような闘志があるのか、想像できません。住まいは明石で、放課後にこのドームで練習しています。付き添いのお母さまは、彼女そっくりのハツラツとした明るい方。「この母のおかげで、競技生活が続けられています」と結衣さんは嬉しそうでした。

21日は国内トーナメント会場のしあわせの村へ。赤ジャンパーのボランティアさんが飛び回っています。18日から22日まで選手の送迎を担当した佐伯義昭(国際8)さんによれば、朝8時には関西空港へ出向き、しあわせの村(宿泊先)～試合会場間を車いすに付き添って何往復もしたということです。この大会には、国際部会の柳川瀬淳一さん(国13)ら15人、北区会の3人がボランティアとして活躍しています。本当にご苦労さまでした。

(取材・写真 広報・宮里寿子=北区会)





入場1000人目の赤ちゃん

写真はいずれも5月5日芝生広場で。
撮影：渡邊佳視、南形徹、井口久美子



萌える新緑に野鳥を追って



親子で作って遊んでチャレンジだ



鳴いた、飛んだ

新緑萌える村内一帯で4月28日、バードウォッチング大会が開かれ、野鳥ファン105人が参加しました。

午前10時、4グループに分かれスタッフの先導で芝生広場を出発。「ほら、セキレイが鳴いている」「あつ、オオルリが飛んだ。キビタキもいたよ」。双眼鏡をのぞき、おしゃべりしながら、キャンプ場―堂坊池―ビオトープのコースを2時間かけて散策。「緑の中を歩くのは気分がいいですね」「毎回来ているが、仲間との情報交換が役立ちます」と中年ファン。お父さんの双眼鏡を懸命にのぞく小学生もいます。

広場に戻って、観察できた野鳥をチェックし散会しました。どのグループも20〜25種ほど確認できたようです。この日は、野鳥の会の15人がガイド役を務めてくれました。＝上の写真は、ガイド役の説明で一斉に双眼鏡をのぞく参加者



村内でとらえたキビタキ④巣箱に侵入したヘビ⑤ (堀池さん撮影)

●わいわいストリートの各ブースは、昔遊び研究会・木工クラブ・うらしまたろう・ケナフの協力で開催しました。



育ちゆく

花実の森

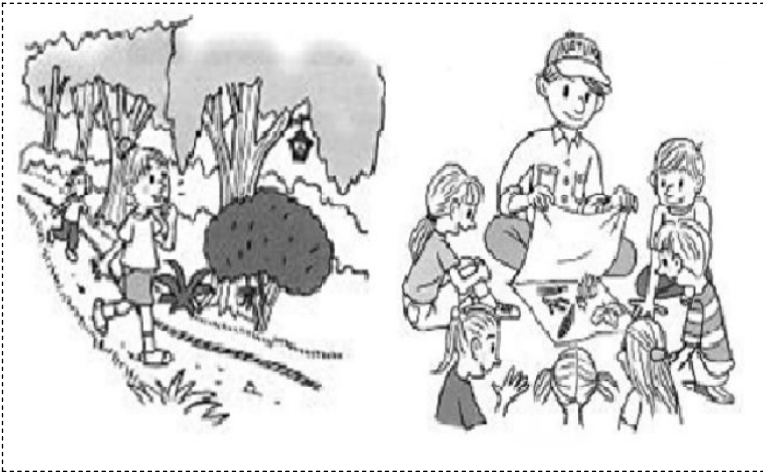
②



子供たちの学習の森に

花実（はなみ）の森のもうひとつの柱に“学習の森”の創生があります。小学3年生の授業『自然環境体験学習』の場として整備を進めており、授業の具体的な企画の内容が決まり次第、神戸市の小学校に案内を出す予定です。

自然環境体験プログラムを通して自然の姿・はたらき、人と自然の関わりをたのしく学べる森・里山を提供できればと、今は現場の整備と並行して、求められている自然環境教育指導者の姿・理念などのソフト面を習得すべく、自主的な勉強会も開きながら“学べる里山”づくりに取り組んでいます。



子どもたちが「自然環境体験学習」を通して、視覚・聴覚・触覚などの諸感覚をフルに活用しながら、心の目をひらき、体で感じ取ったり、自ら働きかけたりする学習から、「やる気」を呼び起こし、「豊かな人間性」が培われていくことを期待しております。

日本の未来を託す子どもたちが、“感性豊かな子どもたち”に育ってくれることを願い、里山整備を進めていきたいと思ひます。

（花実の森プロジェクト 菅田忠志）



花山小が未来館で環境学習

北区花山小の4年生（3クラス）の子供たち80人が6月14日、環境未来館を訪れ体験学習に取り組みました。午前は「くらしとごみ」。DVDなどでゴミ出しルールや地球環境問題、神戸市のゴミ問題を学び、分別方法も体験。巨大なクレーンが稼働するリサイクル工場を見学しました。

午後はビオトープ「未来の泉」で生き物の生態を調べ、モンドリに入ったメダカ、ドジョウ、ヌマエビ、オタマジャクシなどを水槽に入れて観察しました（写真）。スイレン、ジュンサイの花も見ごろ、何種類ものトンボも飛び交って、子供たちは自然の素晴らしさを楽しんでいました。

環境学習は今年度から未来館が始めた企画で、7月中旬にも西区狩場台小の子供たちがやってくる予定です。（環境未来館・石谷完）

24年度の地域交流会を開催

地域活動を広めようと、在学生を対象にした24年度の地域交流会が6月20日（東灘・灘・中央・長田・西）21日（垂水・須磨）7月24日（北・兵庫＝台風で延期）にカレッジホールで開催。地域活動の現状説明のあと、「ボランティア活動の楽しさ」のテーマでグループ〈わ〉理事の長谷川博・小林精一・南形徹さんが体験談を語り、学習支援委員会の加藤勇治委員長は学習支援への協力を訴えました。行政側からも「学校現場が求める支援活動」の報告があり、午後は各区に分かれて交流会が開かれました。地域ボランティアは、町の清掃や学童見守り、校庭整備など62グループが活動しています。

秋に第10回マジックの祭典

マジッククラブ（森田明朝代表）は、11月24日（土）（13:30～16:00）、兵庫県民会館ホール（中央区）で「第10回マジックの祭典」を開催します。現役マジック同好会（古後健一会長）との合同公演で、OBと現役二十数組が日頃磨いた妙技を披露します。入場無料ですが、秋に整理券を配布します。「毎年の発表会が10回目となるのを機に、ハトが飛び出すように飛躍を願って外部の舞台で成果を見ていただくことにした」と森田代表は意気込みを語っています。問い合わせは森田代表へ（078-821-7624）。

ボランティアの心

マジック人生万歳!

空閑義郎 (福祉3期・灘区会)

若い頃、近所にプロのマジシャンがいて、よく遊びに行きました。彼が大阪の寄席に出演するときには出かけて行って、舞台上に展開される不思議な世界に魅了されたものです。ある時、彼から「神戸にマジッククラブができる。興味があれば参加しませんか」と誘われたのが、私がマジックを始めるきっかけとなりました。

シルバーカレッジで2年生になった平成9年4月のこと。しあわせの村で開催されている「グリーン・セミナー」(高齢者健康教室)の趣味講座で「6月の講師をやってほしい」と依頼されました。セミナーには、軽いスポーツ、医師や栄養士の話、趣味講座などが組み込まれていました。

私の趣味講座では、簡単なマジックを体験してもらったのですが、参加者全員が生き生きと挑戦し、楽しんでいました。その中に、左手が少し不自由な男性がおられ、一生懸命がんばる姿が印象的で

した。後で奥さまから「こんな元気な主人を見て感激です」と感謝の言葉をいただいたことが、今も忘れられません。

このセミナーで受けた感動から、趣味のマジックを生かして社会に奉仕しようと決意し、平成9年にマジッククラブを創設しました。それも自分ひとりではなく、クラブ仲間のレベルアップをはかりながら、一緒になって多くの人々に楽しみを提供し、ささやかでも社会に還元しよう、と心に誓いました。



あれから15年、今では仲間に教えたマジックの種類も200を超えました。平成23年のボランティア活動は84回。のべ60名が参加し、4000名の人々に楽しんでもらいました。お客には喜びを与え、自分たちも少し優越感にひたりながら、今日も元気でマジックに励んでいます。マジック人生万歳!

＝写真は2010年のマジックの祭典から



賀川ハルの生涯

没後30年に寄せて

賀川ハル(1888~1982)は、賀川豊彦と24才で結婚し、同志として豊彦を支えて、豊彦亡き後22年間に亘って事業を

引き継ぎ、1981年93才のとき、69年間に及ぶ社会福祉活動により名誉都民の称号を授けられた。

ハルの没後30年の今年5月5日、賀川記念館の語り部(17名)が次の4テーマに分かれて研究調査し報告しました。以下はその概要です。

①豊彦の同労者としてのハル ②文化人としてのハル ③大蔵大臣としてのハル ④ハルは女性として幸せだったか?

ハルの母方の祖父は下級武士の出身で、裕福な家庭に育ち両親から愛情をいっぱい受けるが、家が3度火災にあって没落し、ハル14才の頃家計を助けるために1年間女中奉公に出ます。16才の時神戸に一家で転居し、印刷工場の女工になります。

賀川とは出会いから2年後に結婚し、生活は神戸新川の貧民窟で始まります。賀川のアメリカ留学(1914年)と共に、ハルも横浜の共立女子神学校に入学しました。ハルにとっては神学校の生活が生

涯で最も心おきなく勉強することができた時期であったかもしれない。1917年神学校を卒業し、神戸新川に戻ります。トラホーム予防のため点眼薬をもって巡回診療中に感染し、右目の視力を失いました。

1920年処女作「貧民窟物語」を出版。1923年自伝「女中奉公と女工生活」を出版し、働く婦人の地位向上と教育・啓蒙に尽力しました。1922~1929年にかけて1男2女を出産し、立派に育てている。

1923年9月1日の関東大震災後、賀川は救援のため上京、ハルも子供を背負って救援物資集めに奔走。10月末には救援活動のため一家で東京に転居しています。ハルは教会の一室で、カウンセラーとして悩みごとの相談にも応じていました。

賀川はハルを次のように紹介しています。「赤字の決済を処理する私の大蔵大臣だ」。賀川の場合はハルの精神であり、賀川の魂とハルの魂は信頼の絆でしっかりと結ばれていました。

1955年、4か月にわたり在米イエス友の会の招聘でアメリカ伝道旅行に行き、次女梅子の通訳で125回の講演を行う。

1960年、賀川の事業を引き継ぎ、1982年死去。

(賀川記念館語り部 郷肥三・福9期)



ボランティア報告会賑やかに

第17回ボランティア活動報告会が6月13日、ボラセン傘下の28グループが参加して開催され、カレッジ構内は終日熱気に包まれました。ホールでは映像によるグループ活動の紹介のあと、大正琴や人形劇・フラ・マジック・合唱など12グループが舞台上でパフォーマンスを披露。ロビーでは花苗・クッキー・陶芸などの販売、書道・子ども文化などのパネル展示、木工などの作品展示が行われ、和室では茶会が、園芸室では紙漉き体験教室が開かれました。



静岡からカレッジ研修旅行に

大学女性協会静岡支部の一行11人が6月7～8日、研修旅行でカレッジを訪れ授業やサークルの練習風景を見学。「私たちと同じシルバー世代が、生き生きと勉学やボランティアに励んでいるのを見て勇気づけられた」と話していました。

7日午前は健福3年のグループ学習(写真)と音文の授業を参観。昼食は全員で学生食堂へ。午後はLL教室に移り、シルバーカレッジの概要(松島事務局長)、しあわせの村の概要(南本常務理事)、グループ〈わ〉のボランティア活動(南形広報担当)について、ビデオを見ながら説明を受けました。参加者からは市政の中での位置づけ・財政面・カリキュラムなどについて質問がありました。

午後は、巡回バスで村内を1周。緑に包まれた広大な敷地に各種の施設が点在する風景に眼を見張っていました。同夜はホテル棟で一泊。8日午前中も健福・生環・国際の授業を見学し「ごく短時間しか聴けなかったが、授業内容も思っていた以上にレベルが高く、皆さんの真剣な態度に感心した」と驚いた様子でした。同協会には72か国が加盟。各県に支部があり多文化共生事業や奉仕活動をしています。

学び、友情を育む新たな人生

大学女性協会静岡支部 勝又幸子

私たち大学女性協会静岡支部会員11名は6月7～8日の2日間、神戸市シルバーカレッジの視察としあわせの村を見学する貴重な機会をいただいた。参加した会員は50歳台前半から70歳台後半まで、個々のライフステージや関心の違いから視察する視点も異なっていたと思う。私は55歳で久しく会社勤めをしてきたが、最近子どもが成人し、自分の定年退職が現実味を帯びてきた世代で、その目線で視察させていただいた。

広大な敷地に多様な施設を配したしあわせの村をバスで一巡し、その設備の素晴らしさに、南欧にいるかのような錯覚さえ覚えたと同時に、自治体の財政難がつづく昨今、どうやってここを維持しているのだろうか、と興味もわいた。カレッジが求める学生像が「地域活動、ボランティア活動に理解と熱意をもつ方」とのことで、カルチャーセンターとは違う社会的意義がそこにあることを知った。グループ〈わ〉の活動についても、カレッジ卒業生による自発的な活動だと聞き、行政がおぜん立てする「生涯学習」とは違う、独立性と自発性が感じられた。

カレッジ入学者はコースによって男女比は異なるものの全体では6対4で男性の方が多いという事実に興味をもった。高齢になって元気に地域活動に参加するのはもっぱら女性というイメージが強かったからだ。伴侶を亡くした人をはじめとして「おひとり様」が多いとのことだが、カレッジに集い、あらたな人間関係を作っていくことは長寿社会を生きぬく者には必要なことだろう。

仕事の人間関係だけで生きてくると、肩書が無くなった時のことを不安に思うことがある。それは、家庭婦人としておなじことで、母として、妻として生きてきた人が独りになり、自分が何者であるかを自問自答する時がくる。そんなときに、年長の先輩たちの生きざまから学ぶところは大きだろう。学年という上下関係が、年齢や経験ではなく、カレッジでの学びの時間の長短だけによることも魅力だ。だれでも新たな人生のスタートを切ることができるのだ。学習だけでなく、クラブ活動で友情を育むことも可能だ。カレッジで学ぶ人々の生き生きとした表情から、そんなワクワクした気持ちも感じるとることができた。

活動レポート

オカリナ コンサート

須磨区会は6月6日午後から一の谷プラザ（須磨区）でオカリナコンサートを開催。約30人の参加者は、やわらかな音色に乗って



流れる「浜千鳥」「ローレライ」「歌劇・魔笛より」など約20曲を楽しみ、最後は「ふるさと」を全員で歌って散会しました。出演は〈青いカナリア〉（11人）、〈鳶鳥クラブ〉（18人）、〈スタンドグラス〉（音文10期）の3グループ。垂水区会からも10人あまりが駆けつけ、「親しみやすい曲ばかりで、くつろいで聴けた。とてもよかった」と話していま

した。細野恵久区会長も「初めての試みだったが、まずまず」と、ほっとした様子でした。（須磨区会）

ゲストティーチャーに期待

24年度最初の「学習支援者の集い」が4月13日、50人が参加してカレッジ学習室で開かれました。加藤勇治委員長が「現在の登録者は107人。実働は64人なので70人に伸ばし、支援校を49校からさらに増やしたい」と年度目標をかかげ、登録者に協力要請がありました。続いて、市教委の丸山明夫氏と有原暢彦氏が講演。「昨年からのゆとり教育がなくなり、教科書も分厚くなった。教えることも増え、〈わ〉の皆さんのようなゲストティーチャーに期待する部分が多くなった」と映像を交えて学校現場の状況を説明。神戸っ子応援団についても「〈わ〉の活動は今までどおり続けてほしい」と要望がありました。

質疑では特別支援への疑問・要望が多く出されました。（学習支援委員会）

ミャンマーで梅酒づくり

北山秀俊（国際9・須磨区会）

寄稿

ミャンマー政府は経済重視政策を矢継ぎ早に進め、政治犯の大部分を解放。各国の経済制裁も一部解除が続く。4月の補欠選挙では45議席中スーチー氏率いる政党・民主連盟（NLD）が43議席獲得した。これらの変化で、私たちミャンマー皆好会（かいこうかい）への問い合わせも多くなり、活動も広がりつつある。

2001年、ある会合で中尾作蔵氏（故人）から「北山君ミャンマーに行けへんか」と声をかけられた。

「実はなあ、ワシはビルマ戦線に従軍してたんや。敗色濃い中、飲まず喰わずで英印軍に追われ多くの兵士が戦病餓死した。そんな中でも、ビルマ人に助けられた兵士の多くが復員できた。その恩返しに、梅の苗木を植えに行くんや、一緒に行ってくれへんか」「はあ、行かしてもらいます…」。

同年12月にゴルフバッグに苗木150本を詰めて26人がミャンマーを訪問。高地ピンウールィンで現地農民の皆さんと植林をした。

この植林には苦勞話がある。中尾さんはすでに練乳工場を支援しており、今度は梅林をというわけだったが、南部の専門家の見立てでは、南高梅では気候が合わないという。そこでピンウールィンと同じ緯度にある台湾の二星梅（アールシンメイ）を選び南部で苗木に育てて持参した。06年に16kgを初収穫、07年165kgと収量も増えていった。



次は採れた梅をどうするか。農民たちに梅酒づくりと梅干にする方法を指導した。シャン州の米糠酎（36度）に干した梅を漬

け込むが、氷砂糖・一般黒糖・椰子黒糖の3種を試作した。08年には私も訪問して1年物の梅酒を試飲した。ストレートでは強いのでミネラルウォーターで割っていただいた。現地の人たちは、椰子黒糖が一番美味しいという。ミャンマー人は普段は安いラム酒を飲むので、梅酒も手頃な値段で提供され、広まればいいなと願う。梅酒と梅干はミャンマーとタイの日本人社会で販売されている。梅干も好評だがミャンマー人の食卓に上るまでにはなっていない。

植林から10年経ち今では約4トンの実を収穫できるまでになった。梅の木を増やす「取り木」の技術指導もしているが、まだ自立には程遠い。課題はいくつもあるが、農民支援は着実に成果をあげている。

2002年に皆好会が結成され、2005年にはNPO法人の認証を得て活動の分野が格段に広がり、会員・賛助会員も87人となった。これを機に、2005年からはイラワジ川河口でマングローブの植林にも取り組んでいる。=写真は大きく育った梅林の前に立つ北山さん

WA からのお知らせ



〈わ〉 会員1275人に

グループ〈わ〉の会員が、6月末で1275人となりました。毎年、100人ほどだった新入会員が190人と好調で、16期だけでも160人の入会がありました。今年も東北支援活動を継続するほか、各サークルと協力して各種のイベント、学習支援活動などを幅広く展開します。卒業後の人生を更り豊かにするために、〈わ〉の仲間に加わって活躍しませんか。年会費は1人1500円（保険500円・地区会とサークルへの助成が各400円・広報誌送料200円）です。

オープンカレッジに参加を

保田茂先生の講演「くらしと食生活」

7月21日（土）（10時～12時）にカレッジホールでオープンカレッジを開催します。「くらしと食生活」のテーマで保田茂先生（本校講師・神戸大名誉教授）の講演があります。〈わ〉会員・同窓生の皆さま、お誘い合わせのうえご参加ください。無料。申し込みは電話か、FAX（住所・氏名・年齢を明記）で、カレッジ事務局まで（TEL078-743-8100、FAX078-743-8103）。

●〈わ〉のお盆休み

グループ〈わ〉事務局は8月13日（月）から15日（水）までの3日間、お盆休みをとらせていただきます。

8月7日（火）と17日（金）もカレッジの清掃日のため校内への立ち入りはできません。

11月に第2回東北支援報告会

〈わ〉の東北支援チームは、11月20日（月）のジョイラックデーに第2回東北支援報告会を開催します。7月に派遣した第3次チームと福祉振興協会チームメンバーの体験発表のほか、記録ビデオの上映を予定しています。

●24年度広報委員 ▽部会＝福祉・加藤勇治、国際・柳川瀬淳一、環境・茅中英一、文化・川村進、いきがい・岸田富雄▽区会＝東灘・長谷川博（生9）、灘・木下完治（食10）、中央・久保正志（国14）、兵庫・大掛敏夫（生7）、北区・徳原尚世（国9）、長田・藤田忠之、須磨・細野恵久（福3）、垂水・池田惇（生15）、西・堺寿代（音9）▽施設など＝未来館、一ノ谷、学習支援▽委員＝宮城智子（音2・兵庫）、宮里寿子（美10・北）▽本部＝南形徹（生14）西山久雄（園16）小畑浩昭（国16）

●『ぎやらりー わ』60号は10月上旬発行です。

「自分のために」の風潮

つぶやき

〈わ〉本部の役員になってから早くも6年。3年サイクルで交替するはずが、なぜか居座り続けて皆さんにご迷惑をかけています。

この間に感じたことは『再び学んで他のために』の建学精神を忘れ『再び学んで自分のために』の人が多くなっているのは残念です。ボランティアは自分探であり、生きがいを持つことが、はつらつと健康に暮らしていくための第一歩。ボランティア活動は、自発的に・やれる作業を・やれる時間帯に・やれる範囲内で、「してあげる」ではなく「おたがいさま」の気持ちで、無理をせずに続けることが大切です。誰もが幸せに暮らせるような高齢化社会は、高齢者自らがかわっていくものです。

〈わ〉のボランティア活動標語に

*経験と知識が〈わ〉となり 他のために

*〈わ〉になって 新たな生甲斐 ボランティアがあります。

今一度、建学精神をふり返し、〈わ〉の組織を利用して、地域社会のお手伝いをしようではありませんか？（監事 長谷川洸士・北区会）

編集後記



★東北へ第3次チーム出発。銭太鼓や振興協会の参加で、ひと味違った活動が期待できます。仮設も小学校も昨秋訪れた施設が大半なので、子供たちとの再会も楽しみです。KSCでも観光ボランティアで現地を訪れる動きが出てきています。今号は2組を紹介しましたが「行ってよかった」との思いが何よりのお土産のようでした。

★2千人を越す家族連れで大盛況だった〈わいわいストリート〉。「昼食も食べれなかった」スタッフも出たほどです。7月から、村の夏祭り、かえっこバザール・工作塾…子供たちが楽しみに待つイベントが続きます。本部も協力サークルも「喜んでもらえる内容に」と、準備に大わらわの日々です。

★『三匹のおっさん』という小説がシルバー世代に売れているそうです。同じ町内に住む定年後のおっさん3人が、自警団みたいなものを作り、町内のトラブル・痴漢・空き巣被害を解決する暑さしのぎの痛快譚です。ロンドン五輪もいよいよ開幕。節電の夏なのに、テレビから眼が離せない悩ましい季節になりそうですね。（広報担当・南形 徹）

グループわ 7～9月のイベント

開催日時・場所	テーマと内容	問合せ先
7月1日(日)13時～15時30分 FFPイベント広場	FFP セタまつり 折り紙や願い事を竹笹に飾る	フルーツフラワーパーク 954-1000
7月5日(木)9時～11時30分 神戸市立花山小学校	日本伝統文化体験講座 お茶、生け花、着付け、銭太鼓、大正琴	グループわ 743-8101
7月24日(火)9時～16時 環境未来館・関電発電所	エコスクール 関西電力発電所バスツアー	こうべ環境未来館 995-3196
7月28日(日)15時～18時30分 しあわせの村芝生広場	しあわせの村まつり 食べて遊んでまつりを満喫	グループわ 743-8101
7月28日(日)10時～15時30分 環境未来館	エコスクール 太陽電池でメロディ・電気自動車試乗体験	こうべ環境未来館 995-3196
8月5日(日)13時～16時 神戸市シルバーカレッジ	かえっこバザール おもちゃを交換し掘り出し物をゲット	グループわ 743-8101
8月7日(火)10時～16時 森永乳業神戸工場	エコスクール 工場見学とエコなデザートづくり	こうべ環境未来館 995-3196
8月19日(日)10時～15時 しあわせの村研修館・研修室	夏休み工作塾 手づくり工作にチャレンジ	グループわ 743-8101
8月26日(日)10時～15時 環境未来館	エコスクール 夏休み自由研究お助け隊	こうべ環境未来館 995-3196
9月2日(日)9時～15時 しあわせの村ローンボール場	ローンボール大会 ローンボールを楽しむ	グループわ 743-8101
9月16日(日)13時～15時30分 FFPイベント広場	昔遊びフェスティバル 10種類の遊びを体験する	フルーツフラワーパーク 954-1000
9月17日(月)10時～15時 環境未来館	エコスクール ワケトンと地球を救え	こうべ環境未来館 995-3196
9月29日(土)10時～15時 しあわせの村スポーツ広場	ペタンク大会 会員相互の親睦を図る	グループわ 743-8101

●グラウンドゴルフ 出場者募集 しあわせの村球技場で10月11日(木)、グラウンドゴルフ大会(わ主催)を開催します。3人1組で32チームの出場者を募集します。参加費は1組1500円。個人戦・団体戦の表彰をします。申し込み・問い合わせはグループわ本部・木田まで(743-8101)。



新緑さわやか 棚田の初夏

爽やかな新緑を楽しむ「森林浴ハイキング」が晴天の6月4日、西神中央駅ー寺谷ー端谷城址ー櫛谷ー太山寺のコース（7キロ）で行われ、森の仲間のスタッフを含め33人が参加しました。この日は端谷城址では山本善英さん（生11）から秀吉との戦鬪で落城した歴史話を聴き、棚田が点在しウグイスが囀る「太陽と緑の道」を約4時間かけてのんびり歩きました。＝写真は西山久雄撮影



足環 シジュウ カラ34羽に

しあわせの村の野鳥はどこへ？移動状況を調べようと、5月17日・6月13日にシジュウカラのヒナ34羽に軽アルミ製の足環がつけられました。うち1羽をP4駐車場近くでキャッチ。右足に2……2の刻印がある足環がついています。親鳥のエサを待っているところのようですが、ヒナの生存率は10%程度。うまく成長してくれるといいですね。（6月17日、堀池邦康氏撮影）

仮設で楽しい食事会

グループ〈わ〉の会員有志が観光ボランティアとして東北を訪問。女川町の仮設住宅では被災者と一緒に神戸風お好み焼きをつくり、食事会を楽しみました。（記事は3面に）



トピックス

写真：ビオトープへ未来の泉
で見ごろを迎えたスイレン。泉
境未来館提供。



スイレン満開 未来の泉